

第 19 回西東京糖尿病心理と医療研究会のご案内

先生方におかれましては、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。さて、この度下記概要にて、第 19 回西東京糖尿病心理と医療研究会を開催させて頂く運びとなりました。本会は、日常臨床において重要な糖尿病をもつひとりひとりと私たちとの関係のありかたを学んでいく領域に関する研究・啓発を目的とした会で、医師及び糖尿病治療に関わる全ての医療従事者を対象に開催いたしております。つきましては、何かとご多忙中のこととは存じますが、万障お繰り合わせのうえご臨席賜りますようお願い申し上げます。

記

日 時 : 平成 28 年 1 月 30 日(土) 15:30~18:50

会 場 : 府中グリーンプラザ 6 階 大会議室

府中市府中町 1-1-1 Tel.042-360-3311

参加費 : 500 円

定員 : 100 名

プログラム

開会の辞【15:30~15:35】

公立昭和病院 内分泌・代謝内科 部長 貴田岡 正史先生

総合司会

朝比奈クリニック 院長 朝比奈 崇介先生

国立がん研究センター中央病院 総合内科・歯科・がん救急科 科長 大橋 健先生

第一部:ワークショップ【15:35~17:35】

「 体験！糖尿病医療学的事例検討 」

ファシリテーター: 天理よろづ相談所病院 内分泌内科 北谷 真子先生

「 ~腎症が進行する患者との 5 年間の関わりで思うこと~ 」

症例提示: 朝比奈クリニック 管理栄養士 渡部 一美先生

休憩 10 分【17:35~17:45】

第二部:特別講演【17:45~18:45】

「 糖尿病医療学を考える 」

京都大学 大学院教育学研究科 心理臨床学領域 臨床実践指導学講座 教授
皆藤 章 先生

閉会の辞【18:45~18:50】

高村内科クリニック 植木 彬夫先生

* 日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第 2 群>1 単位申請予定

* 西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位 4 単位申請予定

共 催

西東京糖尿病心理と医療研究会 ノボ ノルディスク ファーマ株式会社

*当日は軽食をご用意しております

第 19 回 西東京糖尿病心理と医療研究会 参加申込書

【 お申込み先 】

【 お問合せ先 】

FAX 番号. 042-362-1602

TEL 番号. 042-362-1601

申込み締切り: 2016年1月25日(月)

担当 : ノボ ノルディスク ファーマ(株) 池辺

御施設名

御所属

御氏名

御参加予定人数

名

御職種

医師

看護師

薬剤師

栄養士

その他

* 該当する職種 に、お手数ですがチェックをお願い致します

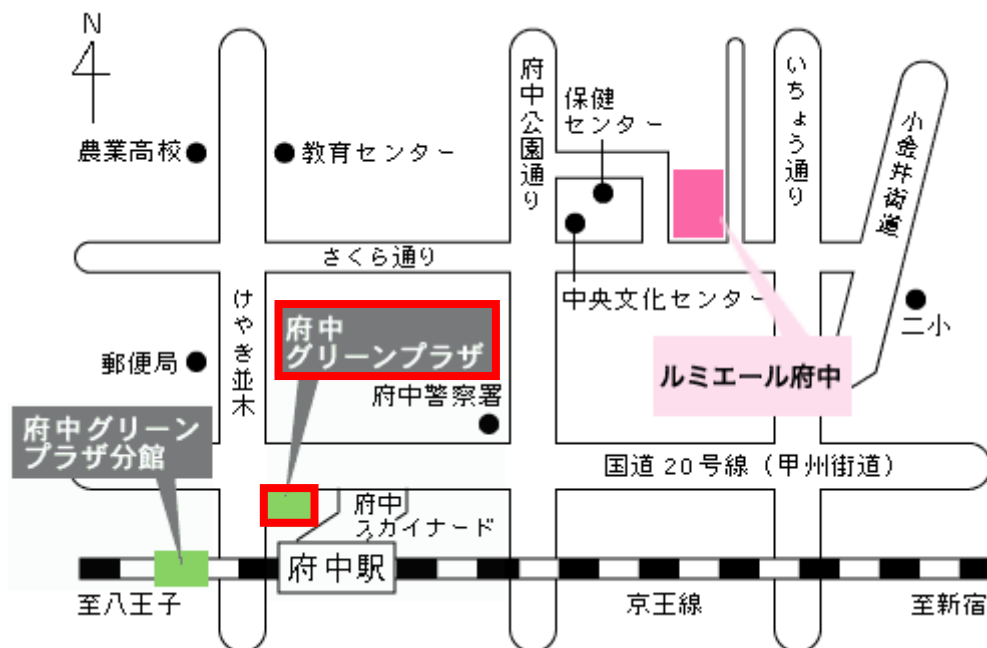
連絡先 TEL 番号・FAX 又は E-Mail

* 個人情報保護法に基づき、ご施設名・ご氏名などの個人情報は、本会への出欠の確認にのみ使用させていただきます。

* 尚、お申込み頂いた時点で参加受付完了とさせていただきます。

* 先着100名様を超えてお申込み頂いた際には、弊社担当者より連絡させていただきます。

会場 : 府中グリーンプラザ 周辺地図



「糖尿病医療学的事例検討」

私達の施設では、深いレベルで糖尿病患者さんを理解し、患者さんの準備状態に合わせた支援を模索する事を目的として事例検討を行っています。これを通じて患者さんと私達の関係の在り方を学ぶという、「糖尿病医療学」の学びを深めています。今回は、患者さんの言動のみに目を向けるのではなく、「患者さんと医療者の間にあるもの」をも見つめながら、自分達が患者さんをどう考えるのか、今後どのように支援したいのか、を中心に議論を深める「糖尿病医療学的事例検討」を皆さんと体験したいと思います。

北谷 真子(きたたに まさこ)

石川県生まれ。高校(浪人?)までは名古屋で育ち、青森県の弘前大学に入学。卒業後は金沢大学に入局、大学院進学。石川県内の病院と大学病院とで研修をつむ。次第に糖尿病のチーム医療、糖尿病患者の心理的アプローチの必要性、重要性を実感し、石井均先生の教えをもとに病院内外で勉強を重ねた。2009年から天理よろづ相談所病院内分泌内科勤務。石井均先生、皆藤章先生のもとで研鑽をつみながら、病棟での事例検討(症例心理カンファレンス)の開催や、県外での事例検討のコーディネートなど、事例検討を通じて糖尿病医療学の構築を目指す事を目標としている。日本糖尿病学会専門医、日本内科学会認定内科医。医学博士。

「糖尿病医療学を考える」

ひとは糖尿病という生涯関わり続けていかねばならない病いを抱えて、どのように暮らしていくのであろうか。医療者の指示・指導を守ってセルフコントロールを怠らず、糖尿病と付き合いしていくのだろうか。もちろん、そのようなひともいるだろう。しかし、糖尿病と付き合うことに強い抵抗感を抱くひともいる。そうしたひとは、医療者の指示・指導を守らないことが多い。このようなとき、医療者はどうしたらよいのだろうか。ここに糖尿病医療学の必要性がある。今回は、この基本的な、しかし日常医療で数多く出合う事態に向き合う糖尿病医療学について考えてみたい。

皆藤 章(かいとう あきら)

福井県生まれ。京都大学工学部に入学するが、三回生のときに教育学部に転じ、生涯の師である河合隼雄に出会い、臨床心理学を学ぶ。京都大学大学院を終えた後、大阪市立大学助教授、甲南大学助教授を経て、現在は京都大学大学院教育学研究科教授。奈良県立医科大学糖尿病学講座非常勤講師。国立がん研究センター中央病院客員研究員。文学博士、臨床心理士。

臨床心理学のなかでもとくにユング心理学を中心に実践・研究を積み重ねている。専門は臨床心理学、糖尿病医療学、医療人類学、臨床実践指導学。

現在、京都大学において「糖尿病心理臨床研究会」を主催し、石井均先生の指導を受けながら、天理よろづ相談所病院、京都府立医大病院、沖縄ハートライフクリニックなどと協働して糖尿病医療学の実践・研究を行っている。海外との接点はジョスリン糖尿病センター、ウインスロップ病院のアラン・ジェイコブソン博士、ハーバード大学のアーサー・クラインマン教授と積極的な議論を展開している。